



令和3年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

令和3年5月14日

東

上場会社名 プレシジョン・システム・サイエンス株式会社上場取引所  
 コード番号 7707 URL http://www.pss.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田島秀二

問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務部長 (氏名) 田中英樹 (TEL) 047-303-4800 (代表)

四半期報告書提出予定日 令和3年5月14日 配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無 ( )

(百万円未満切捨て)

1. 令和3年6月期第3四半期の連結業績(令和2年7月1日~令和3年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
3年6月期第3四半期	6,863	103.1	663	—	558	—	462	—
2年6月期第3四半期	3,379	9.5	△156	—	△163	—	△195	—

(注) 包括利益 3年6月期第3四半期 478百万円( —%) 2年6月期第3四半期 △201百万円( —%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
3年6月期第3四半期	17.09	17.01
2年6月期第3四半期	△7.59	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
3年6月期第3四半期	9,896	6,243	63.1
2年6月期	6,436	4,320	67.1

(参考) 自己資本 3年6月期第3四半期 6,243百万円 2年6月期 4,319百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
3年6月期	—	0.00	—	—	—
3年6月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和3年6月期の連結業績予想(令和2年7月1日~令和3年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,000	77.6	850	—	750	—	600	—	22.05

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

3年6月期3Q	27,666,900株	2年6月期	26,366,900株
3年6月期3Q	86株	2年6月期	86株
3年6月期3Q	27,062,069株	2年6月期3Q	25,768,712株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計方針の変更)	9
(会計上の見積りの変更)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	9
3. その他	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界的な新型コロナウイルス感染症「COVID-19」の拡大によって、グローバルな経済活動に大きな影響を与えており、依然として予断の許さない状況が続いております。

このような状況の中、当社グループはバイオ関連業界において、血液や組織細胞などの検体から遺伝子(核酸)を抽出するための自動化装置(DNA自動抽出装置)を中心として、遺伝子研究の現場に対し様々な自動化装置を事業展開してまいりました。また、遺伝子の抽出技術に増幅・測定技術を組み合わせた全自動PCR検査システムを開発し、これまでの研究開発分野に加えて病院や検査センターなどの臨床診断分野も対象として販売を開始しております。更に、装置の使用に伴い消費される試薬(DNA抽出及びPCR検査用)や反応容器などのプラスチック消耗品の販売にも注力いたしました。

これら製品は、世界的な販売網を有するバイオ関連業界の大手企業との契約によるOEM販売(相手先ブランドによる販売)を中心に、国内及び欧米子会社を通じた自社販売も含め、ワールドワイドに事業展開しております。

当第3四半期連結累計期間は、売上高は6,863百万円(前年同期比103.1%増)、売上総利益は2,264百万円(前年同期比120.8%増)となりました。特に世界的な新型コロナウイルス「COVID-19」確定迅速検査の需要に対応するために、国内販売を開始した自社ブランド製品及びエリテック社向けOEM製品である全自動PCR検査装置や、DNA自動抽出装置の販売とそれらに付随する試薬・消耗品の販売は好調に推移しました。全体としては前年同期比で増収増益となりました。

一方、費用面においては、研究開発費は短期間の製品応用開発費用など476百万円(前年同期比31.1%増)と増加したことなどにより、販売費及び一般管理費は、1,601百万円(前年同期比35.4%増)となりました。これらの結果、営業利益は663百万円(前年同期は営業損失は△156百万円)となりました。

また、資金調達に係る支払手数料の計上等により、経常利益は558百万円(前年同期は経常損失△163百万円)となり、更に税金費用等の計上によって親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、462百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失△195百万円)となりました。

売上構成は、次のとおりであります。

(構成別売上高)

	前第3四半期 連結累計期間		当第3四半期 連結累計期間		対前年同期 増減率	(参考) 前連結会計年度	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
	百万円	%	百万円	%	%	百万円	%
装置	2,019	59.8	3,492	50.9	72.9	2,947	58.2
試薬・消耗品	956	28.3	2,752	40.1	187.8	1,559	30.8
メンテナンス関連	201	6.0	440	6.4	118.8	303	6.0
受託製造	201	6.0	178	2.6	△11.7	256	5.1
合計	3,379	100.0	6,863	100.0	103.1	5,067	100.0

#### ① 装置

当第3四半期連結累計期間は、売上高は3,492百万円(前年同期比72.9%増)となりました。詳細は以下の通りです。

##### (a) ラボ(研究室)自動化装置

従来より事業展開しているDNA自動抽出装置を中心としたラボ向けの各種自動化装置の販売に関する区分であります。当第3四半期連結累計期間は、売上高は1,300百万円(前年同期比15.4%増)となりました。増収の要因はワールドワイドの取引先にOEM供給をしているDNA自動抽出装置の販売が順調に推移していることによるものです。

(b) 臨床診断装置

当社の事業領域として、遺伝子を利用した臨床診断分野が拡大しています。従来の研究開発分野に加えて、この分野の拡大に注力していきたいと考えています。

当第3四半期連結累計期間は、売上高は2,191百万円(前年同期比145.7%増)となりました。国内販売向け及びエリテック社向け全自動PCR検査システムの販売は好調であり、増収となりました。

② 試薬・消耗品

当区分は、当社装置の使用に伴い消費される、DNA抽出及びPCR検査用の試薬や反応容器などの専用プラスチック消耗品の区分であります。

当第3四半期連結累計期間は、売上高は2,752百万円(前年同期比187.8%増)となりました。特に世界的な新型コロナウイルス「COVID-19」確定迅速検査の需要に対応するために、前年同期比で増収となりました。

③ メンテナンス関連

当区分は、装置メンテナンスやスペアパーツ(交換部品)販売などの区分であります。主要なOEM先は、OEM先が自社でメンテナンス対応しておりますが、スペアパーツは当社から購入する契約となっております。

当第3四半期連結累計期間は、売上高440百万円(前年同期比118.8%増)となりました。前年同期比で増収となりました。

④ 受託製造

当区分は、子会社の製造工場であるエヌピーエス(株)が実施している、当社以外の外部からの受託製造事業の区分であります。

当第3四半期連結累計期間は、売上高は178百万円(前年同期比11.7%減)となりました。当区分は、エヌピーエス(株)の収益確保のための事業となっております。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は9,896百万円となり、前連結会計年度末に比べて3,459百万円の増加となりました。主な要因としては、現金及び預金等の流動資産が2,771百万円増加、機械装置等の固定資産が687百万円増加いたしました。

負債合計は3,653百万円となり、前連結会計年度末に比べて1,537百万円の増加となりました。主な要因としては、短期借入金等の流動負債が1,585百万円増加、長期借入金等の固定負債が48百万円減少いたしました。

純資産合計は6,243百万円となり、前連結会計年度末に比べて1,922百万円の増加となりました。主な要因としては、第三者割当された新株予約権の権利行使に伴う新株発行により、資本金が722百万円増加、資本剰余金が722百万円増加いたしました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和3年(2021年)6月期の通期の連結業績予想に関しましては、売上高9,000百万円、営業利益850百万円、経常利益750百万円、親会社株主に帰属する当期純利益600百万円に修正しております。

詳細につきましては、本日公表の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

「当社(PSS)の現在(営業・開発)の取り組みについて」

(DNA抽出自動化装置)

当社の中核技術である磁性粒子によるDNA抽出自動化装置は分子生物学分野の臨床応用への拡張と合いまって、OEM製品、PSSブランド製品とも増加の傾向にあり、特に日本、アジア圏においては、(株)日立ハイテクノロジーズとの業務提携の効果が今後の業績を牽引して行くものと考えております。

更に、新機種PreLEAD(多検体同時核酸抽出装置)の開発を終え、ラージボリューム(大容量)やハイスループット需要分野への導入も開始され、Magtration技術の活用範囲が広がっています。

(全自動PCR検査システム)

DNA抽出とリアルタイムPCRとを結合した全自動PCR検査システムはOEM提携先であるエリテック社の臓器移植分野において需要が高まり、好調な出荷が続いております。そしてPSSブランドのgeneLEADⅧはヨーロッパにて結核、インフルエンザ項目をスタートしています。

geneLEAD技術コンセプトは汎用性が高く、ユーザーフレンドリーであることが実証されつつあり、今後適応分野や地域を拡大させ、感染症だけではなくオンコロジー(ガン)やシーケンサー前処理等での利用を目指し開発を行います。

(新型コロナウイルス感染症「COVID-19」への取り組みについて)

PSSはCOVID-19をはじめ重篤感染症の脅威から掛け替えない人命や経済を守るためPCR検査体制の構築を目指し、PSSの技術を集積した核酸(DNA)抽出自動化装置(magLEADシリーズ)及び全自動PCR検査システム(geneLEADシリーズ)とPCR試薬とを連携させたシステムに注力してまいりました。特にgeneLEADシリーズは核酸抽出とリアルタイムPCRの一貫全自動システムとして、ヨーロッパを中心に世界の医療現場で導入されています。

日本国内においても、全自動PCR検査装置とPCR試薬(COVID-19検査用)が保険適用の対象製品となったことにより、昨年8月3日より販売を開始し自社ブランドの全自動PCR検査装置は順調に日本の医療現場に導入されています。そしてこのたび新たに「全自動PCR検査日本モデル」として、唾液プーリング検査、リオフィライズ(凍結乾燥試薬)カートリッジ、バーコード検査管理を駆使した「ALL PCR Process in Single Room」によるスクリーニング、診断一貫体制を提案しています。

今後は「コロナ禍におけるPCR検査目詰まりの社会的問題」を見極め、全自動PCR検査の省力化だけではなく、大幅な時間短縮、人為ミス及び感染リスクの軽減や、COVID-19のより高感度検査実現を目指します。さらには、発生が予測される各種ウイルス対応検査試薬の開発、製造に向けた事業体制を拡大し、将来の重篤感染症、パンデミックに備えた自動化システムの普及に鋭意取り組み社会貢献を果たしてまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,113,042	3,737,784
受取手形及び売掛金	1,573,795	1,878,930
商品及び製品	352,616	769,087
仕掛品	311,561	195,136
原材料及び貯蔵品	587,054	972,172
その他	338,100	495,322
貸倒引当金	△2,058	△2,411
流動資産合計	5,274,112	8,046,020
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	372,393	578,986
機械装置及び運搬具（純額）	130,642	536,211
工具、器具及び備品（純額）	166,524	185,794
土地	212,469	227,159
リース資産（純額）	125	69
建設仮勘定	185,496	72,251
有形固定資産合計	1,067,652	1,600,471
無形固定資産		
ソフトウェア	4,230	126,636
ソフトウェア仮勘定	20,150	25,680
無形固定資産合計	24,381	152,316
投資その他の資産		
投資有価証券	37,440	37,440
繰延税金資産	8,371	40,029
その他	24,873	20,039
投資その他の資産合計	70,684	97,508
固定資産合計	1,162,719	1,850,297
資産合計	6,436,831	9,896,317

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	624,658	880,326
短期借入金	500,000	1,700,000
1年内返済予定の長期借入金	186,710	216,350
未払法人税等	32,625	130,672
賞与引当金	48,199	62,097
その他	394,390	382,713
流動負債合計	1,786,584	3,372,159
固定負債		
長期借入金	326,320	278,527
繰延税金負債	2,385	2,461
その他	777	—
固定負債合計	329,483	280,988
負債合計	2,116,067	3,653,148
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,921,334	4,643,722
資本剰余金	1,828,929	2,551,317
利益剰余金	△1,363,264	△900,691
自己株式	△50	△50
株主資本合計	4,386,948	6,294,297
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△67,509	△51,128
その他の包括利益累計額合計	△67,509	△51,128
新株予約権	1,326	—
純資産合計	4,320,764	6,243,168
負債純資産合計	6,436,831	9,896,317



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2021年3月31日)
売上高	3,379,152	6,863,767
売上原価	2,353,451	4,599,500
売上総利益	1,025,700	2,264,267
販売費及び一般管理費	1,182,298	1,601,102
営業利益又は営業損失(△)	△156,598	663,164
営業外収益		
受取利息	114	617
為替差益	1,841	6,942
助成金収入	300	—
補助金収入	—	250
その他	959	1,117
営業外収益合計	3,215	8,927
営業外費用		
支払利息	6,712	9,703
支払手数料	—	97,724
株式交付費	3,334	6,212
営業外費用合計	10,046	113,640
経常利益又は経常損失(△)	△163,429	558,452
特別利益		
固定資産売却益	8,864	—
特別利益合計	8,864	—
特別損失		
固定資産売却損	182	—
固定資産除却損	2,726	0
製品補償費	33,000	—
特別損失合計	35,908	0
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△190,474	558,452
法人税、住民税及び事業税	5,954	127,380
法人税等調整額	△815	△31,500
法人税等合計	5,138	95,879
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△195,612	462,573
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△195,612	462,573

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2021年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△195,612	462,573
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△5,726	16,381
その他の包括利益合計	△5,726	16,381
四半期包括利益	△201,339	478,954
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△201,339	478,954

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、第三者割当された新株予約権の権利行使に伴う新株発行により、当第3四半期連結累計期間において資本金が722百万円、資本準備金が722百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が4,643百万円、資本剰余金が2,551百万円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、自動化システムインテグレーションサービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

重要な固定資産の取得決議（大館試薬センター第二工場建設）

2021年4月1日開催の取締役会において、下記の内容にて、秋田県大館市に大館試薬センター第二工場を新たに建設することについて決議致しました。

1. 取得の理由

当社は、2020年8月28日に策定した新中期事業計画（2021年6月期～2023年6月期）に基づき、2020年7月17日に採択された「サプライチェーン対策のための国内投資促進事業費補助金」を有効活用して、特に日本国内のコロナ禍におけるPCR検査の社会的課題である目詰まりと偽陰性・偽陽性解決に一役担うべく大館試薬センター第二工場を中核とした抽出試薬・消耗品キットのサプライチェーン構築等を目的とした設備投資を実施するために以下の資産を実施するものです。

2. 取得資産の内容

資産の名称及び所在地	取得価額（予定）	備考（予定）
大館試薬センター第二工場 （秋田県大館市）* *当社所有敷地内	約1,454 百万円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地面積 6,059 m<sup>2</sup></li> <li>・建物延面積 3,554 m<sup>2</sup></li> <li>・着工時期 2021年4月</li> <li>・完成 2022年3月</li> </ul>

3. その他

該当事項はありません。